

大人が絵本を 第78回 絵本を手にする



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

にんげんだもの

冬の訪れとともに新型コロナウイルスが最大なる猛威を振るい、第3波襲来となって緊急事態宣言再発出の新年となりました。一年越しの長期戦に入った中、一年中日夜、最前線で対応されている医療従事者の皆様に心から敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

コロナ禍、ウィズコロナ、クラスター、PCR検査、新しい生活様式、社会的距離、三密…、平成の時代まで耳にすることのなかったワードが令和の社会を飛び交っています。理解はしているけれども、見えないウイルスとの闘いに時折、息苦しさや閉塞感に襲われてしまうことがあります。相田みつを氏が天国から、「にんげんだもの」とささやいていることでしょう¹⁾。

息抜きや気分転換、体を動かして上手に精神バランスをとっていけるのは大人、その思考に及ばない子どもたちのバランスを保持していくのも大人の役割です。絵本は息抜きもできるし、気分転換にもなります。今、現実にはできないこと、行けないところへ連れて行ってくれ、いろんな体験をさせてくれます。体を動かす遊びも、絵本が可能にしてくれるのです。コロナの時代に、改めて絵本や書籍に目を向ける人が増えているようです。

コロナ禍で生じた“特需”とは…

プレジデントオンラインやビジネスインサイダー ジャパンなどの情報サイトは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、外食や旅行業などの産業には大きな打撃がある一方で、街の書店には“特需”が生まれていると報告しています²⁾。国内の大型書店を中

心に児童書や学習参考書がよく売れており、紀伊国屋書店によると昨年3月の「休校特需」で学習書が1.5倍増しの売れ行きを見せたといえます。また、書店だけでなくフリマアプリのメルカリでも「参考書」「絵本」の2ジャンルの売買数が2020年2月末から約2倍となり、数千件規模で推移しているとの発表がありました²⁾。

進化し続ける情報通信ネットワーク社会にあおりを受けた出版不況について、本誌2018年2月号でお話しましたが、この3年でさらに悪化が続き、紙の出版物の売り上げは15年連続でマイナスを記録して、2019年はピークだった1996年の半分を切ったという実態があります³⁾。業界自体が地盤沈下を起こす中、コロナ不況となった社会において、起死回生となるのでしょうか。

コロナに娯楽を奪われない！

コロナに振り回された2020年でしたが、芸術文化は人間に癒しや勇気、感動をもたらす、コロナに屈しない生きる活力を与えるものです。昨年11月30日絵本の日に発表された「絵本の日アワード in FUKUOKA 2020 エピソード」は大人の心を豊かに、前向きに突き動かすものとなりました。続く年末の12月28日にはもうひとつ、絵本の賞がお披露目されました。

児童書出版文化産業界関係者には楽しみのひとつとなっている「第13回MOE絵本屋さん大賞」の発

『の』
junaida 作
(福音館書店)



手にするときは！

ひとつの視点「絵本の賞」

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ***

*** 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

表は、心弾むできごとでした。

「私のお気に入りの『の』(junaida)が3位だ！」「ベスト10にヨシタケシンスケさん、4冊も?!」「『ノラネコぐんだん』が今年も選ばれている！」など、絵本ランキングは沈みがちだった思考回路を一気に浮き上げてくれたのです。

全国の書店児童書コーナー店頭に鎮座した1位は、ヨシタケシンスケ作『あつかったらぬげばいい』です。



第13回 MOE 絵本屋さん大賞

『あつかったらぬげばいい』
ヨシタケシンスケ 作
(白泉社)



15cm角の小型絵本にして、その存在感はキョーレツです。「ヨシタケシンスケ」のカタカナ名8文字を目にすると、絵本にあまり精通していない人でも「ああ！」とイメージできるでしょう。2010年に『りんごかもしれない』で絵本作家デビューしてからこの10年で大人の心に響く絵本を多数輩出し、確固たる地位を獲得しているのです。その証明とでも言うべく、今回の絵本屋さん大賞トップ10総なめ…ならぬ半なめです。



いちばん親しまれている絵本屋さん大賞

日本国内には絵本の賞がたくさんあるのですが、絵本業界の専門家から一般人まで、もっとも広く普及しているのが「MOE絵本屋さん大賞」でしょう。それは全国的に書店の児童書コーナーで展開され、購読者にとっても身近なものになっているからです。

白泉社が発行する、絵本のある暮らしを提案する月刊誌「MOE」が、2008年から毎年開催している絵

本大賞で、全国の絵本専門店・書店の児童書売り場担当者3000人にアンケートを実施し、その年に刊行された絵本のなかから絵本賞30位、新人賞5位までを決定しています⁴⁾。

また2016年には、絵本屋さん3000人のアンケートで選ばれた、0～6歳向けの絵本から、中学校入学前のお子さんのいるパパ・ママの投票で5作品が選出される「パパママ賞」を新設しています。パパママ賞の創設は、それまで以上に「絵本屋さん大賞」が子育て中の保護者や保育士など、多くの人の身近な絵本賞となりました。5回目となった2020年の第1位は、総合第4位の『ノラネコぐんだん カレーライス』で、同シリーズは4年連続でパパママ賞を受賞しており、保護者の強い支持を裏付けるものです。



「絵本の賞には、こんな違いがある！」

「MOE絵本屋さん大賞」は、その年に刊行された作品の中から優れた作品を選出するもので、来館者が投票する「けんぶち絵本の里大賞」と同じ選出対象・方法をとる仲間です。この他に、公募原稿の中から選出される、いわゆる新人発掘の賞があります。1979年創設の歴史ある「講談社絵本新人賞」がこの類です。

一般に認識されている「絵本の賞」とは、上記2種でしょう。もうひとつ3つめの賞は、選出対象が文学や芸術への貢献・業績に対して作家などの個人に贈る賞です。日本国際児童図書評議会が国際的な賞に推薦した日本の子どもの本や作家に対して贈られる「JBBY賞」が国内の代表格でしょう⁵⁾。日本の代表として海を渡る作品や作家を国内でも広く知ってもらうための賞で、2年に一度の贈賞です。

第5回、第6回2回連続して「作家の部門」で角野



栄子氏が受賞しましたが、うち第6回の“2018年国際アンデルセン賞への推薦”は、児童文学界の小さなノーベル賞とも謳われる「国際アンデルセン賞」2018年作家賞を受賞し、ポローニャブックフェア会場での記者会見は記憶に新しいところです⁵⁾。

🐧 刊行された絵本から選ばれる「絵本の賞」

その年に刊行された作品の中から優れた作品を選出する絵本の賞は、出版者や書店、自治体の参入で多く散見されるようになりました。歴史ある賞から、目新しい賞までざっとご紹介しましょう。

前回紹介しました「けんぶち絵本の里大賞」の創設は1991年と平成に入ってからのことですが、もっとも古い賞には1952年創設の「小学館児童出版文化賞」があります。小学館の創業30周年を記念して「文学賞」と「絵画賞」として設立されたもので、1996年から発展的に統合し改称されて現在の形になりました⁶⁾。

同じように出版社、新聞社主催の古いものでは、「産経児童出版文化賞」(産経新聞社)が1954年、「講談社出版文化賞絵本賞」は1970年の創設で、令和の現在に至っています。

(公社)全国学校図書館協議会と毎日新聞社が主催する「日本絵本賞」は、この業界の中で信頼をおく賞です。絵本芸術の普及、絵本読書の振興、絵本出版の発展を願って1995年より実施されています。2020年の「日本絵本賞大賞」は、銅版画家の田中清代氏が16年ぶりに作画した『くろいの』が選出されました。田中氏は妊娠・出産で活動を休止していましたが、「産休」明けの復帰作品は作・絵でと決めていたのが、このモノクロームの世界なのです⁷⁾。前年の2019

年には「小学館児童出版文化賞」と、ナミコンクール(主催：ナミア일랜드=韓国)でパープルアイランド賞を受賞した、いま注目度の高い一冊です。

🐧 まだある。あんな賞！ こんな賞！

2000年代に誕生した「絵本の賞」新入りさんをご紹介しましょう。出版社でも書店でもない、全日本私立幼稚園幼児研究機構が主催するのは、2009年に発足した「ようちえん絵本大賞」です。第1回からその変遷を見ていくと、選出方法や賞名に変化があり、試行錯誤の努力がみられます。2016年より、調査広報委員が持ち寄った過去5年以内に出版された絵本の中から“特別賞”“調査広報委員長賞”“こどもがまんなかPROJECT賞”の3作品を含む15冊が選ばれているようです⁸⁾。

書店を運営するリブプラスは、創立25周年を記念して2010年に「リブ絵本大賞」をスタートさせ、良書発掘・情報発信に取り組んでいます。第1回から受賞作品をみてみますと、『うんこ』(サトシン作；西村敏夫絵)、『ほげちゃん』(やぎたみこ作)、『ちくわのわーさん』(岡田よしとか作)と、歴史ある賞とは一線を画しており、現代的な視点を持ち合わせているようです。それは2020年も引き継がれていて、第11回の大賞は『パンドロぼう』(柴田ケイコ作)です。

この『パンドロぼう』は2020年、別の大賞にも選出され二冠に輝きました。それは、蔦屋書店が2020年に立ち上げたばかりの「TSUTAYA えほん大賞」の栄えある第1回の大賞です。

2020年に初お目見えした絵本の賞は、まだあります。

絵本の達人集団である JPIC(出版文化産業振興財団)読書アドバイザークラブにより創設されたのが、「親子で読んでほしい絵本大賞」です。記念すべき第1回の大賞に選ばれた絵本は、日航ジャンボ機墜落事故の犠牲者となった作家の向田邦子氏の小説を、

第25回日本絵本賞大賞

『くろいの』
田中清代 作
(偕成社)





角田光代氏と西加奈子氏のタッグで絵本化した『字のないはがき』です。事故から35年、向田邦子氏に捧ぐ賞です。

風は西から「子どもの絵本大賞 in 九州」

九州から発信するのは、絵本の日アワードエピソード大賞ばかりではありません。福岡の児童書担当の女性有志4人が「現場から生きた絵本との出会いを」との願いで企画し、2008年に創設したことが始まりの「子どもの絵本大賞 in 九州」も元気印の絵本の賞です。創設の願いには、「メディアにたよらない、現場の生きた絵本との出会いをセッティングしたい」という、博多の書店ガールたちの熱い思いが込められているのです⁹⁾。

ポスターなどに謳われるキャッチコピーは、“この本よかつ！”です。「よかつ」は「良い」という意味で、九州各県で使われる方言です。「よかつさ」「よかばい」「よかたい」「よかさい」「よかごた」など各県で、よか変形活用されるものです。「よかつ」で、九州がひとつになる絵本のイベントなのです。

2019年に刊行された絵本から選ぶ第13回(2020)の大賞には、『ころりん・ぱ』(ひらぎみつえ作)が選ばれました²⁾。2位『なまえのないねこ』(竹下文子

第13回子どもの絵本大賞 in 九州

『ころりん・ぱ』
ひらぎみつえ 作
(ほるぷ出版)



作)、3位『じゃない!』(チョーヒカル作)、4位『こんとん』(夢枕獏作)、5位『まちがいまちによっこ』(齊藤倫、うきまる作)と、その視点の広さを感じる中での大賞作の選出は興味深いところでした。

みんなが「良い」という絵本でつながろう

出版不況もなんのその、絵本の活気は勢いを増すばかりに思いませんか。今回紹介した賞以外にも、

「未来屋えほん大賞」(未来屋書店主催)や「わかやま絵本大賞」(一般財団法人 リビングソーシャルプロジェクト;和歌山市)など、“刊行された絵本の中から優れた作品を選出する”絵本の賞は、まだまだあるのです。

一方で、消えていく賞もたくさんあることも添えておきましょう。

絵本の賞を受賞した作品は、絵本を新しく買うときの、ひとつの参考となります。書店の児童書コーナーに立ち寄れば、誰もが知っているロングセラー絵本と新刊絵本がしのぎあっています。どれを買ってよいやら迷うのも当然です。そんなときには、絵本の賞を受賞した作品を選んでみるのもよいでしょう。各賞のサイトでランキングを確認することができます。『くろいの』や『パンどろぼう』のように、賞をまたいで受賞している絵本は間違いがないと言えます。

一定の評価を受けた絵本は、新しい出会いとなりますし、お子さんの反応や興味に意外な発見があるかもしれません。こんな時代だからこそ、子どもも大人も絵本で夢を広げられたらと願います。



文献

- 1) 相田みつえ: にんげんだもの, 文化出版局, 東京, 1984.
- 2) 西山里緒: 新型コロナウイルスで書店の売り上げが急増, BUSINESS INSIDER JAPAN HP <https://www.businessinsider.jp>, 2020/05/17
- 3) (公社)全国出版協会 出版科学研究所: 出版指標年報2020年版, (公社)全国出版協会 出版科学研究所, p.4, 2020.
- 4) MOE編集部: 第13回MOE絵本屋さん大賞2020, 月刊MOE43(2), pp.4-29, 2021.
- 5) 杉原麻美: 児童文学における文学賞の今日的役割と可能性, 淑徳大学人文学部研究論集(4), pp.83-95, 2019.
- 6) 玄光社編集部: 絵本のいま: 絵本作家2019-20, 玄光社, p.230, 2019.
- 7) 田中清代: 作家が語る「わたしの新刊」~細やかな銅版画で描かれたあたたかな世界『くろいの』, 偕成社のウェブマガジン kaisei web <https://kaiseiweb.kaiseisha.co.jp>
- 8) (公財)全日本私立幼稚園幼児教育機構: ようちえん絵本大賞, 私立幼稚園.com <https://youchien.com>
- 9) 絵本ナビ編集部: 「この本よかつ!!」九州の書店員さんが選ぶ絵本大賞, EhonNaviStyle <https://style.ehonnavi.net>